

立正佼成会 仙台教会

# 60周年準備委員会

【提言編】



2017年12月16日

## 1. 仙台教会発足 60 周年記念準備委員会の発足について

立正佼成会 仙台教会  
60周年準備委員会  
委員長 近藤雅則

### ◇準備委員会 発足の意義

今年 1 月 22 日に行われました「2017 年 仙台教会幹部指導会」において、私は次のように述べさせていただきました。

今年は仙台教会発足60周年を3年後に控えた年となります。その60周年に向けて準備をスタートする年です。まだ3年先と思う方もいるかもしれませんが、しかし、60周年になったら始めるというのでは、何もできません。発足60周年に向けた準備をする。その始まりの年が今年であるわけです。

では、誰がその準備をするのでしょうか？この仙台教会は誰の教会ですか？・・・仙台教会は皆さんの教会なのです。

仙台教会の一人一人がしっかりとした自覚に立って、発足60周年に向けた準備をしていく。そこで、私は「仙台教会発足60周年記念準備委員会」を立ち上げさせていただきました。これから、11月まで準備委員の皆さまと共に、より善き「仙台教会発足60周年」に向けて、新たな船出をしていきたいと思えます。

この準備委員会は、2年後に開催される「発足60周年記念式典」という行事＝イベントを、ただ単に開催するために組織したものではありません。

記念式典を開祖さま、会長先生に感謝し、この教えによって救われた喜び、有り難さに溢れたものにしていくためには、“いま”から、“ここ”から、“私たち自身”から、異体同心の心で、智慧を出し合い、経験を語り合い、学び合っていく場にしていくことが大切です。

また、この準備委員会の中で話し合わせ、仙台教会として承認された計画や施策に関しては、随時、実行委員会を立ち上げ、移行し、すみやかに具体的な準備に取りかかっていたいと考えております。

そして、もう一つ付け加えますなら、「仙台教会発足60周年」は大きな「区切り」であり「節目」には違いありませんが、「仙台教会70周年」に向けてのスタートの年としても、位置付けて参りたいと思っています。

#### ◇私の考える4つの「最重要テーマ」

私は、皆さんとお話しを進めていくにあたっての最重要テーマとして、以下の4つの視点を考えています。

- (1) 布教活動をどう展開すればいいのか？
- (2) 次世代人材をどう育成するか？
- (3) どのような社会貢献をしていくか？
- (4) 教会サンガの体制をどうしていくか？

私はこの4つのテーマを“現状からの課題”としてとらえるのではなく、“現状からの目標”として考えてみた時、この4つのテーマが私たちの「大きな夢」となり、「大きな願い」となっていくことが分かりました。

私は、今後10年を見据え、仙台教会を10倍にしたいと願っています。10倍というと、何か荒唐無稽な不可能な数字に思えるかもしれませんが、創立の精神に立ち帰り、情熱をもって本気で取り組んでいけば、必ず成就できると信じています。そのためには、まず何よりも私たちの精進や信心が神仏の願いにかなうようなものであること。また、布教施策に関する私たちの発想を根底から刷新していくことも必要だと考えています。課題は多いかもしれませんが、むしろ、私はワクワク、ドキドキ、ときめきが私の心に沸々を湧き上がってくるのを覚えました。

(1) に関しては、日々の支部サンガ・地区サンガを中心とした「布教伝道」であります。このことは、私たち宗教団体にとっての中心的な実践をどうしていくかということを考えていきたいと思えます。

特に、会員のみでなく、本会のよき理解者・協力者（サポーター）をいかに増やしていくかが重要なテーマであると考えています。

(2) に関しては、ずばり「青少年育成」です。青少年の育成なし、立正佼成会の未来はありません。その中でも、私は特に「少年部の育成」にしっかりと取り組んでいきたいと思っています。

(3) に関しては、仙台教会が地域社会から必要な存在になっていくことが需要です。そのためには地域社会の課題解決に向けて積極的にかかわっていく姿勢が不可欠だと思います。

(4) に関しては、教会60周年に向けて、多様化する現代社会において私たち仙台教会がどのような布教組織、サンガづくりを構築していけばよいかということです。

開祖さまによって開かれ、示され、悟らされ、入らしめてくださった「この道」（無上道）を、希望と勇気と自信を持って歩み、願いを共有化し、ベクトル（目指す方向性・視点）を一つにして、大きな夢を実現していきましょう。

合 掌



## 2. 開祖さまご法話

\* 本委員会を進める上で確認し基調となった、開祖さまご法話「創立精神に帰るとは」を抜粋して以下に記載します。

### 創立精神に帰るとは

わたしがこの会を創立した目的は、ただ一つ「人を救ってあげたい」ということでした。今もってそれに変わりはありません。その救いの「深さ」と「広さ」が大きく増しただけのことで、根本精神はなんらの変化はないのです。では、救いとはいったい何なのでしょう。せんじつめれば、その人の心に安らぎを与え、生きる希望を持たせてあげることであり、わたしは信じています。

世界の人類が幸せにならなければ、日本人だけがヌクヌクとしておられるものではないということが、実感として肌に通ってくるようになりました。こういう時代に、どうして信仰活動だけが旧態依然たるものであっていいのでしょうか。

今日は、いわば因縁の繋りの薄い人びとへもどしどし仏道の救いの手を差し伸べていかなければならない時代なのです。立正佼成会が音頭を取って「明るい社会づくり運動」を全国的に展開するお手伝いをしているのも、また「世界宗教者平和会議」の仕事に熱心に協力しているのも、こうした歴史的必然性にもとづくものであり、宗教的に表現するならば「衆生のすべてを救わねばおかぬ」という仏さまの本願に添いたてまつるものなのであります。しかし、ここでしっかりと反省しなければならぬことが二つあります。

第一は、知見波羅蜜<sup>(注1)</sup>をめざすあまりに、方便波羅蜜<sup>(注2)</sup>の大切さを忘れてはならぬということ。

第二は、横への広い展開に心を奪われ、足元の信仰活動をおろそかにしてはならぬということ。

草創期に帰れというのは、つまり「人を救う」という根本精神をもう一度みつめ直せということであり、そこからわき出る猛然たる勇気と果敢なる実践を再現せよ、ということです。

<sup>(注1)</sup>知見波羅蜜～智慧によってものごとの真実を見とおす能力を完成すること。

<sup>(注2)</sup>方便波羅蜜～人と場合と環境に応じて最も適切な方法で救うことのできる自由自在な能力を完成すること。

### 3. 日程および検討テーマ

○討議形式：「全体討議形式」および「分科会形式」で行われました。

**【第1回】 3月5日（日）**

・テーマ：仙台教会－私の夢を語ろう

**【第2回】 4月8日（土）**

・テーマ：仙台教会の歴史をふりかえる

**【第3回】 5月14日（日）**

・テーマ：宮城県の将来像について（現状と方向性・課題）

**【第4回】 6月11日（日）**

・テーマ：①若者の宗教意識 ②仙台教会の教勢

**【第5回】 7月2日（日）**

・テーマ①：次世代人材をどう育成していくか テーマ②：若者にとって魅力ある教会になるためには

**【第6回】 8月5日（土）**

・テーマ：活力と歓びのある布教活動をどのように展開していくか  
\*視点1 「高齢化、労働環境の深刻化、女性の就業率増加などをふまえて」  
\*視点2 「拠点集合から積極的な布教活動への転換」

**【第7回】 9月10日（日）**

・テーマ：60周年の記念式典・その他のイベント・事業について

**【第8回】 10月15日（日）**

・テーマ①：地域から大切にされる教会になるための貢献をどう果たしていくか  
・テーマ②：教団創立80周年から100周年にむけた取り組みについて（情報提供）

**【第9回】 11月25日（日）**

・テーマ：「仙台教会60周年準備委員会 提言編」（案）の検討

**【第10回】 12月16日（土）**

・テーマ：「仙台教会60周年準備委員会 提言編」の検討

## 【仙台教会60周年準備委員会からのご提言】

仙台教会が今後より発展していくために、これからも大事にしていきたい項目を以下にご提案します。

1. 青少年育成
2. 青少年にとって魅力ある教会づくり
3. 次世代人材の育成
4. 活力と歓びのある布教活動の展開

視点1:高齢化、労働環境の深刻化、女性の就業率増加などをふまえて

視点2:拠点集合から積極的な布教活動への転換のために

5. 仙台教会の社会活動
  - (1) 個人として
  - (2) 教会として

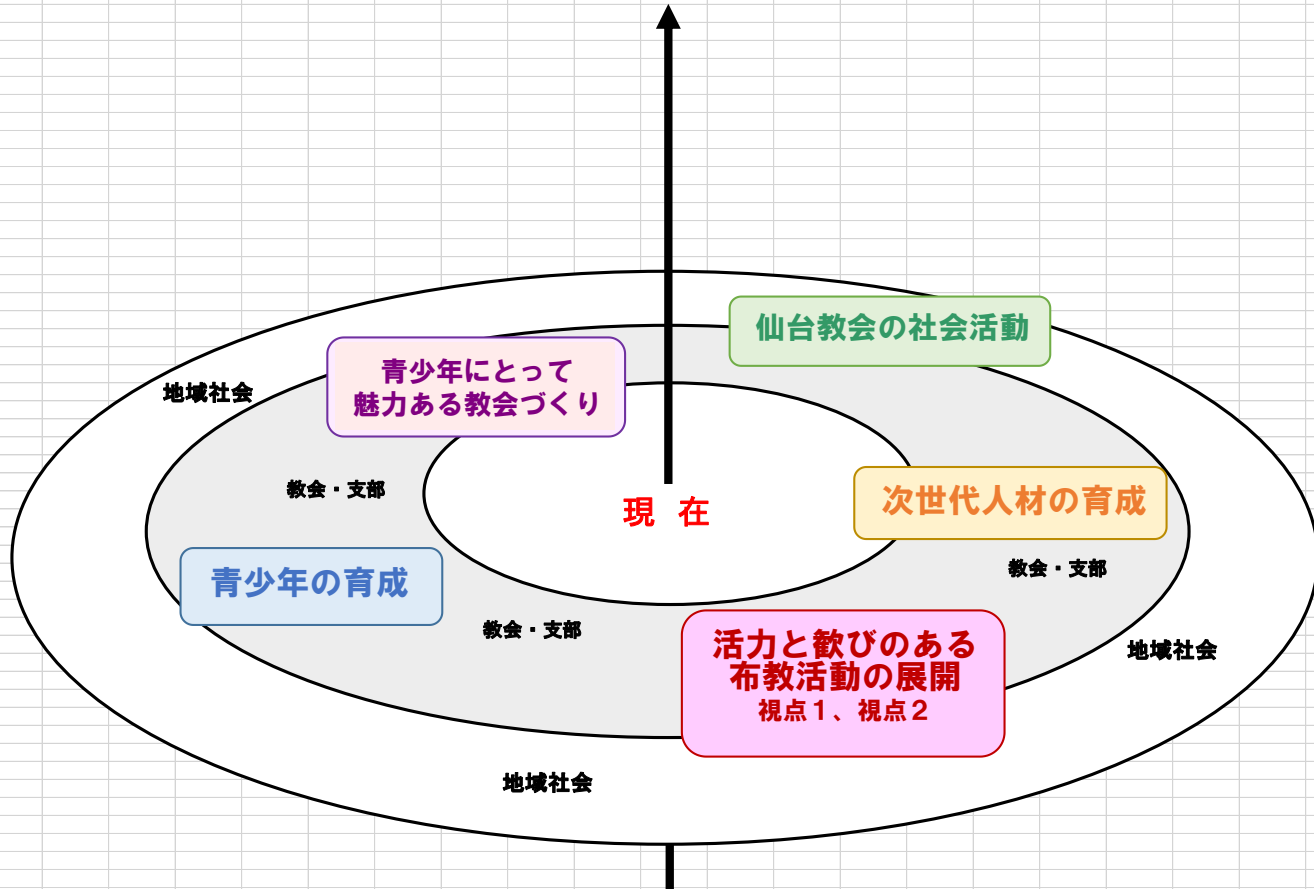


\* 上記の項目をふまえ、以下にその具体的な内容を記載し、さらなる提案といたします。

【仙台教会60周年準備委員会 5つの提言】

未来

包括地域における理想の姿＝「常寂光土」



昭和34年11月、仙台支部発足

過去